

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>Long working hours and alcohol use: systematic review and meta-analysis of published studies and unpublished individual participant data.          長時間労働と飲酒：出版された論文と未出版データを用いた系統的レビューとメタ分析</p>		
<b>執筆者</b>		
<p>Virtanen M, Jokela M, Nyberg ST, Madsen IE, Lallukka T, Ahola K, Alfredsson L, Batty GD, Bjorner JB, Borritz M, Burr H, Casini A, Clays E, De Bacquer D, Dragano N, Erbel R, Ferrie JE, Fransson EI, Hamer M, Heikkilä K, Jöckel KH, Kittel F, et al.</p>		
<b>掲載誌</b>		
<p>BMJ. 2015 Jan 13;350:g7772. doi: 10.1136/bmj.g7772. Review.</p>		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
長時間労働、メタ分析、系統的レビュー		25587065
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>          長時間労働と飲酒との関連を計量的に検討する。</p>		
<p><b>方法：</b>          出版された論文と未出版データを用いた系統的レビューとメタ分析。2014年4月までの出版論文を PubMed と Embase にて系統的にレビュー、手作業も追加した。未出版の 27 研究からも個人ベースのデータを得た。横断研究と前向き研究を検索した。ランダム効果モデルを用いてメタ分析した。不均一性はメタ回帰を用いて評価した。</p>		
<p><b>結果：</b>          横断研究は 14 カ国からの 61 研究 (計 33 万人)、前向き研究は 9 カ国からの 20 研究 (計 10 万人) である。横断研究からの長時間労働と飲酒の統合調整オッズ比は 1.1 (95%CI 1.05-1.18)、前向き研究からの長時間労働と問題飲酒発生のオッズ比は 1.12 (1.04-1.20) であった。週 35-40 時間労働に対する問題飲酒発生オッズ比は、49-54 時間労働で 1.13 (1.02-1.26)、55 時間以上労働で 1.12 (1.01-1.25) であった。これらの関連は性別、年齢、社会経済要因、地域等による違いはなかった。</p>		
<p><b>結論：</b>          勧告値を越える長時間労働は、健康障害を引き起こすレベルの多量飲酒の原因になると考えられた。</p>		